

ぎふグローバル ニュース「Co-Work」16号 H26/12/11

12月11日(木)、本「平成26年度ぎふグローバル人材育成推進モデル事業」の進行状況の中間報告として、県の担当職員の方々と有識者の方々が視察に来られました。

訪問された有識者の方々：

臼井千里氏(岐阜県世界青年友の会)、森哲也氏(株テムスト)、廣田則夫氏(岐阜大学教授)
それと、県の人づくり文化課の青木課長、鳥澤係長、担当岩井さん の全部で6人の方。

1. 本事業の進行状況と今後の予定について

授業を視察していただく前に、本事業の進行状況と今後の予定についての説明をさせていただきました。

主なご感想、ご指摘は

- ・丁寧に継続的に活動している
- ・フィリピンとの交流が中心になっている点が良い
- ・HP等で対外的発信を積極的に進めて欲しい



2. 授業視察

各班ごとにFW(フィールドワーク)などで調べた内容を英語にてプレゼン。本来ならフィリピンのレイテ校と Skypeをつないでプレゼンを見てもらう予定でしたが、数日前にフィリピンを直撃した台風による被害で電力が復旧しておらず交流が出来ませんでした。その代わりに急きょ、別室に今回のプレゼン内容を全く知らない 速水先生に待機していただき Skypeにてプレゼンを見ていただきました。プレゼンの内容についての質問や感想を頂いて、本番さながらのプレゼンとなりました。

- 1班 Nagara River Garbage
- 2班 Sweet fish
- 3班 Nagara River
- 4班 Waju
- 5班 Our Water
- 6班 About Nagara Dam



3. 授業視察後の講評

授業を視察いただいた後に、訪問団の方々から授業や事業の内容についての講評を頂きました。

- ・非常に楽しそうで、生徒が積極的に取り組んでいるのが印象的だ。
- ・地元の宝を、高校生が知ろうとする取り組みがよい。地域のことを大切に思う若者を育てている。
- ・プレゼンテーションではあるが、対話型のコミュニケーションとは言えない。今後、やり取りの工夫とスキルアップに努めて欲しい。



感想

生徒のプレゼンも、一生懸命暗唱し、前回の自己紹介の時より質が向上したように思われた。対話式になっていないとの指摘もあったが、これから力を付けて、聞き取り、その場で対応できる力を付けて欲しいと思う。

いずれにせよ、速水先生の献身的なヘルプもあって、楽しいムードの中、長良川の宝を勉強し、それを発信できたと思う。いい時間となった。

今後は、さらに内容を深めたいと思うが、個人個人のテーマ設定をし、FWに出かけ、水から聞き見たことを論拠にして、力強い発信をして欲しいと思う。

3月には総括であるフォーラムを開き、大々的に外部に見せる発表会を持つ予定である。研究内容の深化と共に、生徒たちの成長が楽しみである。